

## 「世界の中で私たちができること」

私は、世界の中で私たちに何ができるかを考えた時、まず始めに世界の現状を知ることが大切だと思いました。私の学校では、毎年、模擬国連を行っています。他校の生徒と一緒に、それぞれに担当する国の問題点や改善策を考えた上で各大陸ごとに話し合い国連と同じ形で討論します。今年も模擬国連が行われ今まであまり知る機会のなかった国の現状を知るきっかけとなりました。小さな子供が学校へいくことも出来ず家事や重労働をしていたり、一日一食の食事をするだけでさえ難しいようなとても貧しい国や、比較的豊かではあるけれどいくつかの深刻な問題のある国など、一般的にはあまり知られていないような問題を抱えている国もたくさんありました。先進国の人々の生活では考えられない現状に衝撃を受けました。ですが、そのような国や地域に対して実際に、こうしたい、こうしてあげたいと考えたところで簡単に実行できるわけではありません。きりのないほどの費用がかかり手間や人件も必要となります。例えば、飲み水の不足している国に海水を浄水できる施設を作るとしてもその施設を作るための費用がかかり、その施設の使い方を教える為の専門職の方の指導までも必要となってきます。その施設が建設された後も維持していくことは簡単ではありません。一言に助けたいと言ったところで実行することは難しいのです。

だからと言って私たちに何も出来ないわけではありません。ペットボトルのキャップを集めること、コンビニでもらったお釣りをレジの横にある募金箱に入れることなど一人一人に出来ることはたくさんあります。また、インターネットでのクリック募金などもあります。スポンサーバーナーをクリックするだけでお金は一切かからず、募金ができるというものです。企業がクリックした人に代わって募金してくれるのです。この方法だと、気持ちさえあれば世界の為になることができるのです。

現在、食べることもままならない国がたくさんある中で、世界には世界中の人が十分に食べることでできる量の食料があると言われていています。では、なぜ食料不足の国があるのでしょうか。それは食料が豊かな国や先進国には有り余るほどあり、世界中の貧しい人たちが満足に食べることでできる量の食料を食べきれず、廃棄しているのです。発展途上国で作られた作物はほとんどが先進国へ輸出されているにもかかわらずその食料が捨てられています。東京都二十三区の家から一日に捨てられる食料はアジアの五十万人以上が一日に食べる量に相当するそうです。日本全体、世界各地で考えると、とんでもない量であることが分かります。また、世界で食料摂取のしすぎによる肥満体型の人と飢えている人の人数はほぼ同じであると言われていています。この問題を解決する為には一人一人の生活の見直しが必要です。必要のない食料を買わないことによって商社が輸入量を減らすことにつながります。

私たちにできること、とは募金など与えることばかりではないのです。無駄な消費を減らすことも世界への貢献となるのです。貧しい暮らしをしている人々全てを助けることは大変なことです。一人でも多くの人を助けることは、私たちが少し意識を高めるだけでできるのです。私たちには、小さなわずかなことしかできないかもしれませんが、ですが、一人一人の小さな心がけが大きなことにつながると 생각합니다。私は、いつか貧困などの問題がなくなり、世界中の人が健康で幸せな暮らしができるようになることを信じています。